

学科近況

本校では今年3月に1期生が無事卒業し、さらに専攻科が新たに設置されました。メディア情報工学科の卒業生40名の内、27名が就職、13名が進学し全員、希望の進路に進むことができました。先日、東京に出張した際、関東地区に就職・進学した卒業生12名全員と会って話しをする機会がありました。新たに社会人となった卒業生も大学生として勉学に励む卒業生も、皆、異口同音に今はとても楽しい。また、自分の選んだ進路に間違いは無かったといきいきとした表情で近況を報告してくれました。1年生から5年生の各学科の状況については各学年の話題をご覧ください。本号から1,2年生の状況も簡単ですが取り上げる事にしました。また、最近、学生の飲酒がらみの問題が学校内で取り上げられることが多くなりました。本件は飲酒に関して寛容な地域性が良く指摘されていますが、1年から5年までの学生は基本的には未成年です。各ご家庭におきましても未成年の飲酒に関して注意喚起をお願いします。

(平成21年度学科長:正木 忠勝)



新任教員紹介

鈴木 大作 (すずき たいさく)

4月よりメディア情報工学科・講師として着任しました鈴木です。3年生を対象にモバイル通信方式I、4年生を対象にメディア情報工学実験IVなどを担当しています。よろしくお願いいたします。3月までは、パナソニックの研究開発部門の一翼を担う会社で組込みソフトウェアの開発を行っておりました。今、製造業を中心とした国内の企業は世界的規模の景気低迷などの逆境に苛まれ、大変苦しい状況に立たされています。これからの未来を支える技術者には、固定観念に囚われない柔軟な発想とグローバルな視野、変化に対応できる適応能力が求められます。国内外の携帯電話向けミドルウェアの開発や、ブルーレイディスクレコーダの開発など、数々の商品開発に携わってきた経験を活かし、沖縄県内はもちろんのこと、国内、ひいては海外にも通用する技術者となれるような人材を育成することが私の目標です。

着任して2カ月が経過し、沖縄での日々の生活も徐々に落ち着いてきた今日この頃ですが、学校での生活は日々が新しいことばかりで毎日が勉強です。着任してすぐに入学式が執り行われ、メディア

情報工学科としても43名の新入生を迎えました。私も新人教員として、学生たちから学ぶ姿勢を忘れずに、新入生と共に頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



各学年の話題(専攻科1年)

本校は1期生の本科卒業に合わせ本年4月に専攻科を設置しました。4月5日には専攻科1期生28名の入学式が挙行されました。専攻科は本科5年の教育課程にさらに2年間を積み上げた専門教育課程です。専攻科の修了生は大学評価・学位授与機構の実施する試験に合格すると大学卒業と同等の学士号を取得することができます。本校に設置された専攻科創造システム工学専攻は機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コースの4コースからなります。このうち情報工学コースはメディア情報工学科からの進学を前提に作られたコースです。専攻科では本科で学んだ専門知識をさらに深めるためのカリキュラムが編成され、大学院修士課程に相当する授業が行われます。現在、メディア情報工学科の卒業生5名が情報工学コースに在籍しています。本科のメディア情報工学科とともに専攻科の情報工学コースの教育にご理解とご協力をお願いします。

(平成21年度コース長:正木 忠勝)



各学年の話題(5年生)

学級状況

早いもので2期生も最終学年を迎えました。卒研スペースに各自専用の机が与えられ、落ち着いて学習できる環境が整いました。時間割の空き時間にレポート作成や自主的な学習、友人と談笑する姿が多く見られ、最終学年の特権を享受しているようです。

昨年一部の選択科目で試行された学修単位が、今年から4,5年生の殆どの専門科目で実施されています。学修単位は大学で行われているもので、学生の自学自習が重要視されます。例えば2単位の学修単位科目では、教員による講義時間が30時間と従来の半分になる一方、60時間の自学自習を行う必要があります。時間割上は空き時間ができて一見楽になったように見えますが、多くの教員が自学自習用に課題等を出していますので、実際は逆に忙しくなっています。昨年までの学習習慣のままですと、課題の提

出が滞り、単位取得が難しくなる場合が予想されます。ご家庭でも注意するようご指導お願いします。

進学・就職状況

5年生の就職・進学は在学生35名のうち、就職希望が24名(68%)、進学希望が11名(32%)となっています。就職と進学の比率は、昨年と全く同じ数値で、他学科に比べ就職希望が多くなっています。

就職では、今年の1月頃から就職活動がスタートし、これまでに11名の学生が県内外の企業の採用試験に合格しています。採用試験に合格した企業は、県内では沖縄テクノス、シュガートレイン、沖縄日立ネットワークシステムズ、沖縄クロスヘッドの4社4名、県外ではアプリックス、富士通アドバンテストソリューションズ、トヨタコミュニケーションシステム、アイエックス・ナレッジ、エヌアイシー・ソフト、国立印刷局の6社7名です。昨年の同じ時期の合格者数20名に比べると、半分の11名と低調です。これは不況の影響ではなく、学生の取りかかりの遅さが原因と思われる。

一方、11名の学生が進学を希望していますが、5月28日に行われた沖縄高専専攻科の推薦選抜試験で受験した3名全員が合格しています。3年次編入希望学生では、これまでに、2名が琉球大学に合格しています。また、1名が専門学校に合格しています。

まだ、約3分の2の学生の進路が確定しておりません。保護者の方と連携して進路指導を進めていきたいと思っておりますので、ご協力よろしくをお願いします。

(5年学科担任:角田 正豊)



各学年の話題(4年生)

学級状況

4年生は、大学1年生に相当する学年です。このため学年修了条件やショートホームルーム、学修単位等、3年生と異なるしくみ・場面を経験します。例えば、学修単位の場合、100分授業半年で2単位となるかわり、自学自習が求められます。いずれにおいても、より自立した、学習への取り組み姿勢が求められます。保護者の方々からも、自覚した取り組みを促すようお願い致します。

インターンシップや卒研配属、進路の決定が、4年生の重要行事と考えています。インターンシップについては別項にて説明します。上掲のなかでも、進路の決定が最も重要な行事と考えています。これについても、学生個々人の自立した意志決定が重要となります。現在、4年生全員に対し、個人面談を行っています。面談内容は主として進路についてです。以降、必要に応じて面談を重ね、秋口

には学生個々人が意志決定を終えるよう、サポートを行う予定です。保護者の方々からも、ご理解ご支援をお願い致します。

卒研配属も重要行事です。現在の4年生が来年度5年生に上がり、卒業のために「卒業研究(必修科目)」を行わなければなりません。卒研配属は、学生がどの教員の研究室に所属し卒業研究するかを決める行事です。参考のために、昨年度の卒研配属の流れを以下に示します。

10月上旬	研究室配属のガイダンス
10月中旬	卒研希望研究室調査開始
11月中旬	配属決定

すでに、メディア情報工学科サーバには「1期生卒業研究テーマ」のフォルダを開設しており、事前の情報入手が可能です。

本年度は、4月29日に体育祭を全員参加行事として実施しました。例年、雨にじゃまされる体育祭が本年は晴天に恵まれました。4年生も大多数が参加し、もり上がりました。クラスでまとまったことが良かった、と好評でした。体育祭の写真を掲げます。



(4年学科担任:姉崎 隆)

インターンシップについて

近年、インターンシップという教育制度は広く社会に認知されるようになり、その教育効果の期待から多くの教育機関において実施されるようになってきました。沖縄高専では「インターンシップ」という科目を4年生の必修科目としています。夏期休業中の8月17日(月)から9月25日(金)にかけて、協力していただける県内・外の企業(約110社)などにおいて2週間程度の就業体験を積むこととなります。今年度のインターンシップに向けた取り組みとして、これまでに企業説明会、ビジネスマナー講習会学生の希望先調査、学生の割り振り、履歴書などの必要な文書作成の指導を行ってきました。現在、受入企業との調整を行っているところです。インターンシップ期間中は、原則としてビジネスの場に相応しい身なり(服装・髪型など)が必要となります。服装はスーツ着用が必須となりますので、各ご家庭におかれましてもご理解とご協力をいただけますよう、よろ

しくお願い致します。

(インターンシップ担当:タンスリヤボン・スリヨン)



各学年の話題(3年生)

第2学年までは4学科を混ぜて作られた「混合学級」でしたが、第3学年からは学科ごとに分けた学級となります。すなわち、基本的には、この3学年の仲間たちと一緒に卒業まで学校生活を送ることになります。去年度の3年生の中には、学級の雰囲気の違いなどに戸惑いを感じていた学生が数名いました。しかし、今年度の3年生からは具体的にそのような話しはなく、3年生になる前から皆仲良くなっていたかのように、学級にはある種のまとまり感が出来ていたように見えました。これは恐らく、今年度から学校行事となった「体育祭」が4月という早い時期に行われ、そこで皆が1つの目標に向かって頑張るといった経験ができたためだと考えられます。体育祭では、残念ながら優勝は逃したものの、各種目で参加者それぞれが精一杯頑張りました。特に、メインの種目と云っても良さそうな騎馬戦では白熱した試合を繰り広げ、会場を大いに盛り上げてくれました。



【体育祭】今年度の学級旗(3年メディア)



【体育祭】笑顔いっぱいの集合写真(3年メディア)

早いもので、もう6月の下旬に差し掛かっています。6月の第2週目には前学期中間試験が実施されました。後日この学科便りと共に成績通知書が各ご家庭に届けられる予定です。よく云われることとして、3年生から講義の内容(特に専門科目)が難しくなっていくということが挙げられます。最初のうちはまだ易しかったりするものですが、徐々に難易度は上がっていきます。点を取りにくい科目は早いうちから復習したり、分からないところを教員に質問するなどして、なるべく苦手意識を持ち続けないように、しっかり対策して欲しいと思います。

第3学年の特徴として、全寮制でなくなるということが挙げられます。今年度の第3学年は、42人中10人がアパート、2人が実家から通っています。1人暮らしになると、生活が不規則になりやすいため、遅刻や欠課の回数が増えやすくなります。第3学年から第4学年に進級できる学生は「第2学年まで修了(この学年までに修得すべき科目の単位をすべて修得)し、未習得の科目の単位数が4単位以内の者」と学内の規則で定められています。この他に重要な進級関連の規則としては「出席日数が、年間に出席すべき日数の3分の2を超えていること」などがあります(詳しくは「学生生活の手引き」をご参照下さい)。第2学年までとは異なり、第3学年では気を抜けば直ぐ留年(原級留置)に繋がってしまうと云っても過言ではありません。

保護者の皆様におかれましては、学生に対して、日々の生活を規則正しくし、朝からしっかり登校するように、お声をかけていただけますよう、宜しくお願い申し上げます。

ちなみに、30名の学生が寮に残っていますが、次年度以降もさらに寮に残ることができるかどうかについては、学則・寮則をどれだけ守れるか、ということにかかっています。学校・寮生活も3年目に入り、ちょうど慣れてくる時期だと思われませんが、「少しくらい大丈夫だろう」という思いから、つい学則や寮則をやぶってしまうと、後々、寮に残りたくても残れないということに繋がってきますので、十分注意が必要です。また、寮に残ることを希望する学生には、積極的に寮内でのボランティア活動に参加することをお勧めいたします。

さて、最後に「研修旅行」についてご説明いたします。今年度は以下の日程で実施する予定です。

9月23日(水) ・那覇空港集合>那覇空港発>羽田空港着>ホテル着
9月24日(木) ・学科単位での研修 ・メディアでは、日本ユニシス株式会社および日本科学未来館での見学・研修を予定
9月25日(金) ・各学科のグループ単位で研修 ・各グループがそれぞれの研修計画に基づき自主研修

9月26日(土)

・JAL 整備工場見学の予定
・羽田空港発>那覇空港着>解散

なお、企業見学の際にはスーツが必須となりますので、まだご用意されていないご家庭では、お早めにご準備くださいますよう、宜しくお願いいたします。宿泊先は「新宿ワシントンホテル」を予定しております。また、離島・県外出身の学生、さらに上記日程にかぶるようにして家族旅行へ出かける予定の学生に限り、東京現地集合を許可する方向で調整しているところです。東京現地集合の場合、どこを集合場所とするかについては現在協議中です。その他、飛行機の出発時刻や空港への集合時間などにつきましては、決まり次第、早急にご連絡いたします。

(3年学科担任:佐藤 尚)



各学年の話題(2年生)

第2学年は学科別の学級がはじまる前の学年です。沖縄高専に入学する前にそれぞれの学生が考えた将来の夢は、高専に入学し、卒業したら、システムエンジニアになりたい、自動車関係の仕事に就きたい、プログラミングができる仕事をしたい、または大学に編入したいなどでした。しかし、一般科目に関する工学の基礎知識の教育やメディア情報工学科に不可欠なプログラミング技術を学ぶ科目や他の専門科目の影響で2年生になって、今まで考えた夢より卒業後の進路に関して心配している学生が多くなりました。2年生から進路委員の教員に質問したことを以下でまとめました。

1. いまだに自分が将来何になりたいのかが具体的に分からない。
2. 就職・進学以外の道って何なのでしょう?
3. 大学進学を考えています。でも、まだくわしいことがわかりません。わかるのがこわいというもあります。
4. プログラミングが学べる大学ってどこだろう?
5. どんな勉強をしたらどんな仕事ができるのか知りたい。
6. 大学の決め方が分かりません。
7. 大学のくわしい学習内容・専門がわからない。

学科として進路について心配している学生を指導するため、5月のLHRの時間を利用して卒業までの道のりというテーマを設定し、説明をおこないました。また、6月17日のLHRにも第1期生による卒業研究テーマや内容を紹介しました。さらにメディア情報工学科の先輩による体験談を聞く場を設定する予定を考えています。各家庭においても進路についてお話いただければ幸いです。

(2年学科担任:バイティガ・ザカリ)



各学年の話題(1年生)

1学年では入学後はじめての中間試験が終わりました。早いもので1年の授業の四分の一が終わったこととなります。授業などで様子を見てみると、試験結果を受けて不安そうな表情を見せる学生も見受けられます。高専での勉強は、中学校と比べると質・量ともに難度が高くなっています。自分のペースをつかむまでは思い通りに点がとれなかったり、スランプに陥ったりすることもあると思われます。成績表をご覧になられましたら、内容の如何にかかわらず、学生の努力の結果として受け止めて、認めてあげていただきたいと思えます。帰省時あるいは電話口で、学生の様子はどんな感じでしょうか。学校の勉強は楽しいか、寮での生活に問題はないか、など、できるだけ学校の話をしていただきたいと思えます。もし、お子様との会話の中で、不安を感じることがありましたら、学級担任もしくは学科担任に遠慮なくご相談下さい。

(1年学科担任:西村篤)



その他学科内の話題

資格試験

4月20日に実施された平成20年度春期情報処理技術者試験で本学科から7名の学生が合格しました。合格者は次のとおりです。初級システムアドミニストラータ試験:知念憲太郎(3年)、IP パスポート試験:平良里菜(4年)、下地愛絵(3年)、伊礼愛美(3年)、大城よしほ(3年)、基本情報技術者試験:仲本欣司(4年)、宮里友美(4年)。

(資格試験担当:正木忠勝)



編集後記

学科だよりも平成21年度で4年目に入ります。今年度からの新しい試みとして、発行頻度を年4回から2回に減らし、その代わりに配布対象を1年から5年、さらに専攻科までの全学年の家庭に拡げて学校の様子をお届けすることになりました。学科だよりに関するご意見ご要望などがありましたら、編集担当者までお寄せ下さい。保護者の皆様からの投稿も歓迎します。

編集担当者連絡先:

〒905-2192 沖縄県名護市宇辺野古 905
沖縄工業高等専門学校メディア情報工学科 西村篤
電話 0980-55-4003 (代) ファクス 0980-55-4012 (代)
電子メール nisimura@okinawa-ct.ac.jp

